

2003 年度 委員会活動成果報告

(16年3月10日作成)

委員会名	ガラス建築WG	主 査 名：佐野武仁
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名：鉾井修一
設 置 期 間	2002年 4月1日～2004年3月31日	
設 置 目 的 各年度活動計画	ガラスの書籍で、ガラスの発見から、製造、工法、メンテナンス、リサイクル等をまとめた全般がわかる書籍の刊行を目的としている。2002年度は資料の収集・執筆、2003年度は執筆・刊行を目的とした。また2003年度の末にシンポジウムまたは講習会を計画した。	
委員構成 (委員名(所属))	編集委員会 / 主査 佐野武仁(昭和女子大学) 幹事 芦川智(昭和女子大学)・新井健一(セントラルガラス) 村尾元朗(日建設計) 内田敦子(昭和女子大学) 委員 田中辰明(お茶の水女子大学) 石福昭(早稲田大学) ほか執筆委員多数。	
設置 WG (WG名:目的)	ガラス建築WG (ガラスに関する1から10までが判る専門書の刊行)	
2003 年度予算	130,000円	
項 目	自己評価	
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2002年4月から2ヶ月に1度程度編集委員会を開催、2003年度末のシンポジウムに向け、執筆、査読、校正等を行った。	
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)	
	<p>「ガラスの建築学 光と熱と快適環境の知識」</p> <p>を刊行する。 板硝子協会の主催、日本建築学会後援、のもと、「ガラスシンポジウム2004」を日本建築学会建築会館ホールで開催、280人程度が集まり盛会なシンポジウムを開催することができた。内容は、佐野武仁講師の「ガラスの建築学」出版の主旨、桜井潔講師の「ガラスに関する設計コンセプトなど」、板硝子協会の「ポイント法によるPAL」に関する計算法などについての解説があった。 また、刊行委員会から、各地方都市での講習会の要請があったが、建築設備小委員会で検討することになっている。</p>	
目標の達成度	委員会 HP アドレス：	
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の計画通り「ガラスの建築学」を刊行し、1月10日から発売になった。 また、2004/3/2予定通り、建築会館で「ガラスシンポジウム2004」を開催し、280名程度が参加した。	
その他評価すべき事項	ガラス素材の発見から、製造方法、ガラスの形態分析、工法、メンテナンス、リサイクルまでを掲載したほか、技術資料として、専門家にも利用できるPAL、CECの仮設、ガラスの光・熱特性、ガラスの寸法などの資料を掲載し、実学書としての利用に耐える本となっている。	